



# 里山レンジャー 「めざせ！ 古代博士」(令和7年2月2日) 今回は身近な遺跡を見学しました



明け方まで小雨が降っていたのですが、開始時間になると雨もあがりました！  
今回は岡山市文化財課の草原さんから、百間川に残る遺跡(いせき)について教えていただきました。



「発掘調査をすることによって、昔の人たちの生活が見えてきます。」  
縄文時代から人々が住み始め、弥生時代の水田跡も発掘されたんだって。



ここは竪穴式(たてあなし)住居の復元模型です。中央は火を使えるよう、穴が空いています。屋根はカヤ等を使い、意外にも雨漏りの心配はないそうです。  
また、作られる土器も時代によって変化し、工夫されていることがわかりました。



こちらは鎌倉～室町時代の橋の橋梁部分の復元です。橋を洪水から守るため、柱の周りには石でおおい、強さを保っていたそうです。



百間川に残る遺跡を見学し、里山センターに移動して詳しいお話を聞きました。  
「竪穴式住居の作り方も進化している」「想像すると色々な思いが見えてくる」「地層で歴史が分かるんだ」など、話を聞いたり実際に見学したことで、遺跡や古墳をより身近に感じることができたようです。

夏に「百間川博士」で歴史や防災を学び、冬の「古代博士」では縄文時代から室町時代までの人々の生活を知ることができ、レンジャーのみんなはとても百間川にくわしくなりましたね。

令和7年度も様々な体験を通し、操山リーダーをめざしていきましょう!!